

平成 20 年 度 重 点 課 題 の 概 要

課題名	人工林に介在する天然生広葉樹の更新拡大メカニズムの検証
取組の内容	<p>針広混交林化については、導入する広葉樹の種子の供給源となる広葉樹の配置状況や、広葉樹の種子をどのように供給するか等を十分に考慮した施業技術の確立が重要である。</p> <p>このことから、人工林内に介在している広葉樹の樹下及び周辺の区域における天然生稚苗の発生・生育メカニズムを調査・解析し、針広混交林化を確実にかつ効率的に行う施業技術を検討する。</p>
調査項目	<p>広葉樹が自然に侵入した人工林において、伐採後の広葉樹の保残状況により 3 種類の試験区を設定し、天然性稚樹の発生・生育状況を調査・解析する。</p> <p>また、小流域を単位とした面的な林分配置を考慮した針広混交林化を検討する。</p> <p>【調査内容】</p> <p>① 伐根調査 伐採前の広葉樹の侵入状況を調査</p> <p>② 稚樹の発生・消長調査 伐採後の母樹の密度・配置状況及び周辺の種子供給源の配置状況による稚樹の発生・侵入状況や発生稚樹の消長等を 5 年間にわたって調査。</p>
実施機関	近畿中国森林管理局森林技術センター
協力機関	<p>独立行政法人森林総合研究所関西支所</p> <p>国立大学法人岡山大学</p> <p>岡山県林業試験場</p>

平成20年度重点課題の概要

課題名	持続可能で多様な森林造成技術の開発 －小面積帯状伐採と次世代優良苗植栽－
取組の内容	<p>国産材需要の増加や民有林における植栽放棄地の増加を踏まえ、搬出コストや伐採後の更新・保育コストを低減し、持続可能な木材生産システムを確立するとともに、台風の上陸が多い九州の実情を踏まえ、台風等災害に強い森林の造成技術の開発が求められている。</p> <p>このことから、公益的機能の高度発揮に最大限配慮しつつ、災害に強く、かつ低コストで木材を安定供給する施業体系を検討する。</p>
調査項目	<p>生長が極めて良好な次世代優良苗の活用と低密度植栽を組み合わせ、植付及び下刈等を省力化した施業方法により更新・保育コストを削減しつつ、早期に森林植生の回復を図る。</p> <p>さらに、低コスト作業路網を活用し、搬出コストも含めたトータルコストの低減を図る。</p> <p>併せて、台風等強風後の林分調査を行い、災害に強い森林造成についても検討を行う。</p> <p>【調査内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コスト調査 搬出・作業路作設、コスト更新・保育コスト ② 造林木生長量調査 ③ 強風後の林分調査
実施期間	九州森林管理局森林技術センター
協力機関	<p>独立行政法人森林総合研究所九州支所</p> <p>独立行政法人森林総合研究所林木育種センター九州育種場</p> <p>国立大学法人宮崎大学農学部</p>